



## 五條新町「餅商一ツ橋」<sup>もちしょうひとつばし</sup>店舗跡がインキュベーション施設として復活 ～夢を紡ぐ起業家育成の場を提供し地域活性化を目指す～

### ■五條新町にインキュベーション施設がオープン

2021年12月、五條市の新町通り※にインキュベーション施設（起業家の育成や新しいビジネスを支援する施設）がオープンする。本施設は、江戸時代の町並みが残る五條新町のシンボリック存在であった老舗餅屋「餅商一ツ橋」を改修。飲食や小売り、テイクアウトなどの事業実施を希望する法人・個人に貸し出される。起業家に機会と場を提供することで市の活性化を目指す。

※2010年、文化庁から「五條新町」として全国で88番目の重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）に選定された。江戸時代初期に五條藩の二見城の城下町として開かれ、現在も吉野川沿いの東西1km近くにわたり、160戸の町家が軒を連ねる。

餅商一ツ橋は、古い街並みの残る景観が美しく、市を代表する観光スポットとして雑誌やパンフレットに掲載されてきた。創業の大正時代から変わらぬ味を守り続けてきたが事業者の高齢化に伴い、2018年12月、惜しまれながらも約100年の歴史に幕を下ろした。



橋のもとに建つ「餅商一ツ橋」。縦0.8m、横5mの看板が目を引く

### ■町への想いから店舗跡が起業家育成の場として復活

老朽化が進んでいたため、廃業後はそのまま空き店舗となっていた。五條市在住の田中郁子氏は、「この景観は五條新町のランドマーク。このままでは五條新町の顔がなくなってしまう」と、取り壊しを防ぐため店の持ち主と自身が経営する不動産管理会社とで賃貸契約し、活用方法を模索した。餅商一ツ橋は、田中氏にとっても幼い頃から焼き餅やかき氷を食べた思い出の場所。「町の雰囲気を残したい」との思いから開店していた当時のよう

にのれんを掛け、焼き餅やフライまんじゅうのサンプルを並べたところ、再現された往時の様子の写真を撮る観光客の姿がみられるようになった。

再び観光拠点となったとはいえ何らかの事業がなされてこそその店舗。田中氏は、餅商一ツ橋を奈良県でビジネスを展開する人を育てる場所として復活させることを決意した。老朽部分と内装の改修を行い、2021年5月、南都銀行地域事業創造部とともに、餅商一ツ橋（跡）復活プロジェクトを開始。事業を通じて地域経済・社会の発展に貢献したいという思いがある人、発信力があり地域のマグネット的存在となってくれる法人・個人を募集した。

### ■新しい商品で五條新町が賑わうことを目指す

書類審査、面談を経て、広島に拠点を置く法人が選定され、奈良の地域資源を活用したチョコレートを製造・販売することが決まった。同社代表も五條市出身で幼少期に餅商一ツ橋に通ったという。同店舗での事業は2年間。その後は奈良県下で独立して開業する予定だ。

魅力ある商品が売られる「餅商一ツ橋」がアイコンとなり、町が賑わいを取り戻すことを願う田中氏は「五條新町を大事にしたいとの郷土愛から取り組んできた。五條新町は文化度の高さが誇り。町の持つポテンシャルを信じている」と話す。

（八木陽子）



（左上から時計回りに）改修された内装／外観／五條新町の町並み